

東京高円寺阿波おどり開幕！

27日、午後5時、東京の夏の風物詩「東京高円寺阿波おどり」がいよいよ始まりました。今年は60回の記念の大会となり、新聞などでも大きく取り上げられたり、大手旅行会社の「行ってみたい日本のお祭りランキング」で第一位となったことを受け、例年以上の観客が見守る中、8つの演舞場から一斉に踊りがスタートしました。

今年、大手旅行会社が発表した「行ってみたい日本のお祭りランキング」では、高円寺阿波おどりが堂々の1位になりました。2位は青森ねぶた祭り、3位は本場徳島の阿波おどりとなっています。日本には、長い歴史を持つ京都の祇園まつりや秋田竿燈まつりがありますが、ベスト3に2カ所の阿波おどりが入っていることは特筆に値します。

阿波踊りの軽快なお囃子に、勇壮でカッコイイ男踊り、そして息が合った優雅で華麗な女踊り。「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにや損損。」の掛け声にもあるように、観客席にいてもお囃子に併せて体が動き出してしまいます。暑い夏に玉の汗をかいて踊る姿に、自然と手拍子や声援が出てしまいます。踊り手と観客の一体感、そんなところが大きな魅力になっているのでしょう。

日本人にも人気の高円寺阿波おどりですが、今回は2020年東京オリ・パラを見据え、外国人にも足を運んでもらおうと、外国人専用の桟敷席を用意しました。60回目にして、初めての試みです。この日も多くの外国人が観覧。日本の夏の風物詩を楽しみました。そのほかにも、今年初めてのこととして、JR高円寺駅の発車メロディが、通年、阿波おどりのお囃子になりました。これまでも、阿波おどりが開催される8月には、流れていましたが、60回を契機に通年となったものです。

高円寺阿波おどりは、明日28日午後5時から8時に、2日目が開催されます。高円寺駅周辺の8つの演舞場で、2日間でのべ1万人の踊り手が登場。観客も100万人にのぼります。日本で最も行きたいまつりが高円寺で開催されますので、ぜひ会場へお越しください。

